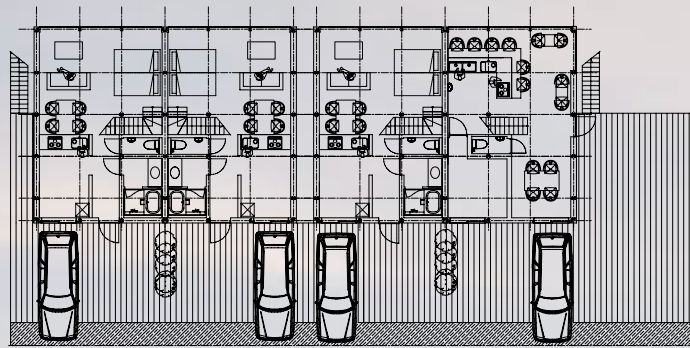


FLOOR PLAN

道路面から海に向かって傾斜していく、日本中どこにでもある海岸線の立地に、銅管杭で人工地盤を作って建築するこのモデル。基礎工事や造成工事をしないことでスピーディかつ、効率的なコスト計画が実現できます。そして何よりもその印象的なフォルムが、商業施設としての最適解を導き出すのです。特に海から見上げたメインカットは、どこにも実例がないワイルド感を醸し出します。一番右の一室はカフェになっており、モデルの管理機能を兼ねています。カフェから眺める荒れた冬の海も最高です。



海に沈む夕日を眺めるために作られたこのモデルの最大の特徴のルーフデッキ。ニッポンの西の端を実感できる場所です。鉄とガラス、そしてそこに映る純粋な夕日のコントラストは、バイク野郎の魂を揺さぶります。道路側からの建物フォルムも印象的。R スパンの銀色の金属光沢とリブ付きの曲面が、一度見たら忘れない視認性も表現します。



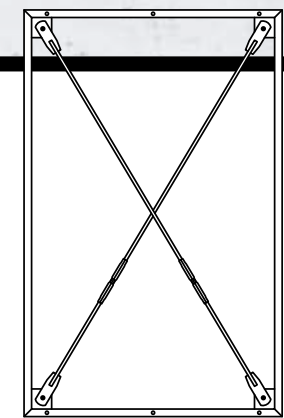
66 PANELS

[33 枚 × 2 部屋]

Theme

水平線に沈む夕日を見るための 海辺のモーターホテル

バイクツーリングご用達になってもらうべく、
今回プランニングした高床式LGSのモーターホテル。
ストレスの多い日常から解き放たれた本当の自由を
提案するケーススタディーです。



What's Daytona House?

デイトナハウスを構成するのは、LGS と呼ばれる軽量鉄骨のパネルで、厚さ 3.2mm、幅 12.5cm、厚み 5cm の「C チャンネル」と呼ばれる部材を、横幅 180cm、縦 270cm の長方形に溶接して製作しています。対角線のクロスしたパーツは、「ブレース」と呼ばれる筋違いで、力の伝達を受け持つ大切な役割を持っています。「柱」と「梁」と呼ばれる縦と横の部材を使って軸組を作っていく一般的な建築とは違って、デイトナハウスはこの LGS パネルを連結することで住宅、ガレージ、別荘、店舗、マンションなどの様々な建築を可能とする、全く新しいカタチのシステムなのです。つまりこの LGS パネルを使った建物全てがデイトナハウスと言う訳です。パネルの枚数を数えるだけで、建築の広さ、およその予算がイメージできる分かりやすさと、パウダーコーティングが施されたその鉄の素材感が醸し出すハードボイルドな空間のテイストも持ち味です。

映画「イージーライダー」の冒頭は、ビーター・フオンダとデニス・ホッパの二人のライダーがモーターホテルへの宿泊を断られるところから始まります。

世の中は今でも、移動をしながら自由な生活を満喫する人生に対して冷たい側面があります。それが証拠にニッポンには良質なモーターホテル／モーターが非常に少ないのが現実です。しかし今後、ストレスがますます多くなる現代社会で、土地に縛り付けられること脱出した、遊牧民的なライフスタイルに関心が高まってくるのが考えられます。

そこで今回は、実際に島根県のある海岸の緩やかな傾斜地に計画中の高床式モーターホテルをご紹介します。この建物は、まさに、遊牧民ライダーのためのモーターホテルなのです。

建築場所は、ただ水平線とそこに沈む夕日がある場所。とにかくその夕日が美しい。そんなロケーションです。建物は 2 棟連続で計画します。1 棟当たりは 100 m²。この平屋の 100 m² が高床式 LGS で建築する場合の基本単位だと考えてください。プランはいたってシンプルです。1 F の LDK とベッドスペース。その上は曲面屋根 R スパンを使った吹き抜けです。吹き抜けから階段を上ると海に面したルーフデッキがあります。ここで旅を共にするバイク仲間と楽しむ本格的な BBQ は文字通り、言うこと無し。まさに遊牧民の境地でしょう。

バイクで風を切りながらツーリングし、海に奇跡のように張り出したウッドデッキで西の空を見ながら肉を食らう。そして鉄の素材感も出しの空間で眠る。このような、ワイルドな旅をテーマとしたデイトナハウスの施設を続々計画中です。土地に縛り付けられる日常から、移動、というイメージを取り入れた自由な生活の幸せ、フリーダム。が、今後数号に渡ってお伝えする連続企画のテーマなのです。映画「イージーライダー」の中でジャック・ニコルソンが最後に語った自由が今蘇るのです。

INFORMATION LDKinc.

デイトナをはじめ、カーマガジンでの長期連載、ムック本である CAR&HOME にて、常にクルマと住宅の関係について提案し続けてきた建築プロデュース会社 LDK inc. 建築設計はもちろんのこと、建築システムの開発や商品開発も行。

代表: 玉田敦士
WEB: www.ldk.co.jp
TEL: 03-6228-4933

DAYTONA HOUSE OFFICIAL HP
www.daytona-house.com

Text/Atsushi TAMADA CG/Kenta KITAGAWA (ldk), Soma YOKOI